

読売新聞 きょう（9月4日）のイチ押し

1面・社会面・3面など 菅首相が退陣を表明

菅首相（自民党総裁）が退陣する意向を表明しました。新型コロナウィルス対応への批判に加え、党内の求心力が低下して、党総裁選での再選は困難と判断しました。来週、改めて会見を開きます。

- ★首相は二階幹事長ら党執行部を刷新して局面を打開したい考えでした。しかし、総裁選直前の異例の人事に党内から反発が噴出し、人事が難航。「菅離れ」が加速したため、総裁任期での退陣を決断したと見られます。
- ★総裁選には、すでに出馬を表明している岸田文雄・前政調会長に加え、河野太郎・行政規制改革相が立候補の意向を固めました。石破茂・元幹事長も意欲を見せており、3人を中心に展開されそうです。
- ★新総裁は10月上旬に首相指名選挙と組閣を行う必要があり、衆院選は衆院議員任意満了（10月21日）以降の11月となる公算です。
- ★「国民のために働く内閣」を掲げてから1年。新型コロナの感染を抑え込めず、対策に協力してきた飲食店や観光業者からは失望の声が漏れました。最前線で治療に当たっている医療関係者からも落胆の声が聞かれました。

1面・特別面 パラリンピック、日本勢「金」2つ

東京パラリンピックの第11日、競泳男子100メートルバタフライ（視覚障害）で4大会連続出場の木村敬一が金メダルを獲得しました。今大会2個目、パラ通算8個目のメダルで金は初めてです。富田宇宙が銀で今大会3度目の表彰台となりました。自転車女子個人ロードレース（運動機能障害）では、50歳の杉浦佳子が金メダルを獲得して、今大会2冠となりました。

他紙と比べて

菅首相の突然の退陣表明に衝撃が広がりました。政治部長が「説明尽くす姿勢見えず」との見出しで、菅首相の一年を総括（1面）したほか、首相が求心力を失った背景（2面）、自民総裁選の展望（3面）、首相退陣が経済に与える影響（経済面）、コロナの感染対策に協力した飲食店や観光業者の落胆の声（社会面）、各地での反響（各地域版）などを掲載。大きなニュースでは、多角的に分厚く報じるのが本紙の強みです。